

びそれに關聯して暴露された資本主義機構の腐敗に對する大衆の憤激を指導し得なかつた。滿洲事變及びそれに引續く一聯の戦争情勢に對する黨の公式的對策は完全に破綻し、黨の反戦闘争は支那新聞のデマ記事やコミンタインのアヂ文書に於てのみ華やかであつたにとどまる。重要なストライキの指導も深刻化しゆく農民闘争の權威ある指導も、黨に依つて行はれなかつた。かつて或時代の日本共産黨は武裝デマの呼びかけをなし、事實、小規模乍らそれを組織した。それは決定的に誤謬であつたが、それでもなほ此誤謬は大衆の支持を確信し大衆の中に突入する思想を現はして居る。それに比べて昨年来の諸事實はブランキズムの悪い要素のみの寄せ集めの亂があり、プロレタリアトと全然縁なき腐敗傾向すら示した。黨は客觀的に見て労働階級の黨であると言へない。我々は全體のことは獄中から沈黙して居るべきである。又、我々は個々の黨員諸君がまじめで勇敢に働いてゐること、闘争が極めて苦しく且つ深刻なものとなつて居ること、一般的諸條件

件が有利に緊張してゐること等を十分知つて居る。しかも黨として組織として、全體として、プロレタリア前衛の結合隊として正しい發展をしてゐると諸君は斷言し得るだらうか。社會の生産機構に直接参加しない小ブルジョアの尖端分子たるインテリ層が、労働階級を踏臺として其の意欲を發散せんとしたのは從來とても屢々有つたけれども、彼等は今や連續せる彈壓のために生じた共産黨の弱さと間隙とに乗じて之に入り、労働階級中の進歩分子たる前衛を踏臺にせんとして居るもとより個々の同志は夢にもそんな大それたことは考へまいが、階級が個々人の意思から獨立して決定された自己の目的を追求することは小ブルジョアとても同じである。此故に彈壓に屈せざる眞摯な同志の勇氣と熱情に拘らず、黨自身の方向がゆがみ、シャーナリズムの喝采を受けても肝腎の労働者大衆の關心から離れ、缺くべからざるプロレタリア的自己批判は抛擲され、純眞の青年同志や労働者黨員は大衆的闘争の中に訓練せられない。我々はこの現狀に大なる遺憾なきを得な